

「神の選び③」

願いと沈黙と貪欲さ (恵) 列王記第二1:1~15

■ 自分の願い

皆さんは聖書の中に出てくる人々のどんな姿が良いと思うでしょうか？神様はみことばによって多くの人を育てて訓練しています。しかしそこから欠落していく姿もあるのです。人生の中では多くのものを諦めなければならないと決断をすることによって本当の願いがわからなくなってしまうことがあります。私たちが大事にしたいこと、それはどんな人生を願うのか、進んで行く人生の中で自分がどのようになりたいのかという願いなのです。今週はエリヤからエリシャへの継承について語られている箇所です。私たちがどう願うべきか、どう生きるべきかを教えているのです。そして教会にいる自分、家にいる自分、近い人に対する自分、本当の自分がどうありたいのかを考えていきたいのです。

■ 願いと沈黙と貪欲さ (恵)

エリヤは年を増していき、いよいよ神様が天に引き上げるといふ段階に到達してきました。(2:1【主】がエリヤをたつまぎに乗せて天に上げられるとき、エリヤはエリシャを連れてギルガルから出て行った。) エリヤは聖書の中でも数少ないこの地に骨を残さなかった人です。神様は特別にこのエリヤを天に引き上げる計画を立てていました。ですがそんな時にエリヤはエリシャを置いていこうとしています。(2:2 エリヤはエリシャに、「ここにとどまっていなさい。【主】が私をベテルに遣わされたから」と言ったが、エリシャは言った。「【主】は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはベテルに下って行った。2:3 すると、ベテルの預言者のものがらエリシャのところに出て来て、彼に言った。「きょう、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っているが、黙っててください」と答えた。) ベテルとはアブラハムが神様に最初に示されて目指したカナンの一部の地域であり、カナンは最初に祭壇を築いた場所でもあります。エリヤが天に引き上げられることを知っていたエリシャは神様を見ていました、しかしエリヤのことも愛し尊敬していました。そして、そんなエリヤが引き上げられることを知りながらも黙っててくださいと沈黙を貫くエリシャの姿をみることができます。(2:9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「私はあなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に、求めなさい。」すると、エリシャは、「では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように」と言った。) エリヤから何を求めるかを尋ねられたエリシャはすぐにこたえています。二つの分け前とは、すなわち二倍の恵みのことで、それを私にくださいとエリシャはまさに貪欲に求めたのです。エリシャは自分の役割に対して何が必要かをわかっていて目の前にあるエリヤを失う時に神様が民を導くために何が必要かと言った時にエリヤ一人の力ではなくその倍の力が必要なのだと言ったのです。エリシャはエリヤの事を非常に尊敬し、愛していましたがそのエリヤに力を与えていた方が誰だったかをよく理解していたことがわかります。エリシャはエリヤに対しすぐに願うことができました。皆さんは神様から欲しいものを願えといわれたらすぐに答えられるでしょうか。私たちが求められたときにすぐに答えられるかどうかはとても大事なことです。なぜならあなたの願いは初めから決まっています神の召しと召命に対して答える恵みのはずだからです。世界に行って願いや夢を聞くとすぐに彼らは応えます。彼らは目の前の病にある家族や、貧しさのゆえにできない勉強できない兄弟を目の当たりにしているので問題を解決したいといつも願っているからです。では私たちはどうでしょうか。日本に生きる私たちは与えられているのに不安を感じ、いつのまにかなくなるのではと思う不足を抱えていないでしょうか。ヨルダン川でエリヤはすぐに求めてきたエリシャに対し(2:10 エリヤは言った。「あなたはむずかしい注文をする。しかし、もし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。できないなら、そうはならない。」) 言ったこの言葉の意味を考える時に私たちは学ぶことができます。見るとは願うということ、見ることができればという言葉には、真剣に願うということが証明されればそれ

が叶うということをエリヤは伝えなかったのかもしれませんが。そして神様は彼の前に現れて御力を表しこの二人の間を分け隔てて天へ上っていかれたのです。エリシャは愛し尊敬するエリヤを失いましたが、それ以上に神様をしっかり見ていました。エリヤはエリシャの育て方に成功したのです。エリシャはエリヤが神様の前にいるときどのようにしていたかをよく知っていました。必要な時に必要な言葉を語り、大変な状況の時も神を見て従ってきたエリヤの姿を学んでいたのです。

■ 信仰の道

エリヤはエリシャに行動を共にすることを通してまさに遺言を残していきました。ギルガル(12の石、岸に記念の塔)からベテル(アブラハム、カナンを目指す、最初に祭壇を築いた場所、ヤコブとエサウ、最初に10分の1を捧げた場所)ヨルダン川(ヨシヤ、イエスキリスト)エリコ(神様の戦い)へと信仰の道を通っていったのです。ヨルダン川で、イエスキリストは十字架の死にまで従われたのです。まさにすべてを捨てた最初のスタートがヨルダン川でした。エリコの城壁を倒したのは人ではありませんでした。最期の時の声を上げるまで話をするなどと言われ誰もが黙っていました。私たちは神の計画を果たすために聞きやすい声ではなく心の深い本当の神の声、願いを聴いていきたいのです。

■ 本田宗一郎

赤字続きの小さな町工場を背負う彼の願いはただ一緒に働く仲間を、そしてホンダの車に乗る人たちを豊かに幸せにしたいということでした。だから自分は報酬を受け取らずに従業員にわけたのです。今のホンダを創り上げた人たちは彼に育てられた人たちでした。ここまでやってきた人の思いを引き継いでいき今のホンダにまで成長したのです。あなたは願いをちゃんと受け取っているでしょうか。私たちは本当の神様を知り、自分の本当の願いを聴いてくださる神様のことを知っています。私たちは願いが自分の思うとおりにならないと感じる時に願わなくなりそして間違った決断を続けてしまい大事なもので手放そうとしてしまいます。それでも神様は天変地異を起こしてでも私たちがずれないように守ってくれているのです。神様が私たちにしようとするのを思い出し、神様の前に願うことを知るなら心は守られ神様の道と一緒に進むことができるのです。頑なな心を置いて神様に素直になって聴き、願う人生を再開したいと思います。

祈りましょう

神様に聴き神様に応えそして神様を伝えるために私たちは召されています。エリシャのように生涯を貫き二つの分け前をもって人々を導き、そしてその地にすばらしい回復をもたらす者になりたいと願います。心の中にある願いを回復し、今まで諦めていた願いをもう一度神様の前に祈りたいのです。そして私たちの心のうちに変化を与え、癒しを与え十字架で流された神の愛の御手の中に進むことができますように。

(要約者: 西崎 真由美)

(2025年2月16日)